



生きる

社会福祉法人広島いのちの電話

事務局 広島 Y M C A 内
〒730-0013広島市中区八丁堀7-11
082-221-3113
発行人 兒玉憲一
編集 広報委員会

ふたりで しみじみ
24時間相談受付(082-221-4343)



「広島城」 Y.Sさん

「つながる」

コロナ禍が収束しない中、2022年10月22日、「25期・26期生歓迎会」と「相談員の集い」が開催されました。歓迎会を企画した先輩相談員の温かさを感じ、また、新たに入った相談員の目指した様々な動機を聞きながら、世の中捨てたものではないなと思いました。いのちの電話のスタッフは私も含めて高齢化になってきており、相談員の人数も減少傾向ですが、このように年々新しい相談員が加わることによって今後も「広島いのちの電話」の活動は継続することが出来ると実感しました。

最近なぜかアインシュタインの相対性理論が気になり、解説本ですが、生きているうちに読んでみることにしました。世の中に偶然はなく、すべて必然のつながりであると解釈しました。並行して手塚治虫の「ブッダ」を読みました。もちろん漫画ですが、そこにも同じように「すべてのものにつながりがある」ことを力説されていました。この2人の本を読んでいる最中に原稿依頼を受け、読み終えた後に、今回原稿依頼を受けたのも何らかのつながりがあるのだと実感しました。おそらく自殺を考えている方はすべてのつながりがなくなった状態であり、いのちの電話が機能すれば最後のつながりに手を差し伸べることになるのだと思います。そうであれば差し出す手は非常に暖かく、ぬくもりのある手でなければなりません。相談員は、その志を忘れず暖かい、ぬくもりの手を持ち続けて欲しいと強く願います。

社会福祉法人広島いのちの電話
理事 天野 國幹

★ 広報誌「生きる」を振り返る

2021年4月100号の発行をきっかけに、広報誌「生きる」を3回シリーズで振り返ってみたいと思います。今回は1987年1号から1998年32号までを紹介します。



広報誌 第1号

「広島いのちの電話」は、1987年(昭和62年)3月に設立準備委員会が発足し、翌4月に設立されました。電話相談活動を「開局」したのは、1年後の1988年4月です。この間、ボランティアによる市民活動をしっかり根付かせようと準備委員会の段階から、今の広報部を広報委員会の名称で立ち上げ、広報誌づくりに着手しました。

開局前の1987年8月に発行した広報誌第1号の名称は、「生きる」ではなく、「広島いのちの電話」でした。

相談員募集をめぐるこぼれ話

「募集を開始して10日、締切の5月27日まで2週間余りしかない頃、応募はたったの9人。相談員が集まらなければ水の泡!ということで頭を悩まし続けていました。ところが直前の25日には58人、27日には100人を突破!最終的には150人の応募となり、嬉しい悲鳴をあげるようになった次第です」

(広報誌第1号より抜粋)

広報誌は、1987年10月発行の第2号から「生きる」と名称を変えました。2号に続いて、1987年12月発行の第3号巻頭言のテーマは「生きる」。

当時の一泰治事務局長が、「私たちをとりまく社会には、小さき者・弱い者が隅に追いやられる、悲しい出来事が起きています。ハンディーを持つ子どもがいるということで、将来を心配して親子が心中したり、家がないというばかりに人間として取り扱ってもらえなかったり、また、近所づきあいがいないということで、人知れず亡くなっていることが日常茶飯事に起きているというのが現状です。マザー・テレサが日本を見て『豊かさの中に貧しさを見た』と評されました。小さき者・弱き存在の者が、大切にされる世の中にならなければならないはず。ひとりひとりが生きることの大切さ、命の尊さを知らなければならないと思います。(抄)」と、発信しました。

この時期は、開局に向けて、資金援助、電話相談員募集等が紙面の多くを占めました。市民運動であり、民間で運営するボランティア活動として、多くの人々の参加と援助によって、よりいっそう大きく育っていくものと、維持会員の輪を広げたほか、チャリティコンサート、オークション、バザー等を数多く行い、宣伝ツールとして広報誌はその一役を担いました。

第3号以降、研修委員会、広報委員会、ボランティア委員会、財務委員会、事務局会議の報告も掲載され、組織の基礎固めで頑張っていたことが伝わってきます。様々な立場で、たくさんの人がかわり、広島いのちの電話を支えていたことが分かります。

1989年11月発行の第7号から、「生きる」の文字が毛筆となりました。「広島いのちの電話」を支えたいという志の強さが伝わってきます。

この時期は社会福祉法人化に向け、寄付金募集の記事が中心となりました。



広報誌 第2号



広報誌 第7号

電話相談活動が始まって1年を過ぎた頃の記事に、「『私は独りなのだ』という絶望感の中にある人の側に立って、そっと手を握ってあげる役割をするのが『いのちの電話』である」と私たちの使命が確認されています。「聴く」ということに関する記事がずいぶん増えたのもこの頃です。電話相談は20～30代の若い世代が大半を占めていました。

1994年4月発行の第18号から、10周年を迎えての法人化に向けた発信がされ始めました。法人になると社会的信用が高まり、寄付金は一定条件で免税となり、公的助成も受けやすくなることから、広報誌はその基金を集めるために大きな役割を果たしました。

1998年6月に社会福祉法人として認可されるまで、目標に向かって準備が進んでいく様子が毎号伝えられています。それを達成して、第32号では、法人化を「新しい出発」として発信しました。



広報誌 第32号

主な活動状況 (2022年7月～11月)

心といのちを守るシンポジウムひろしま2022 ご報告

「心といのちを守るシンポジウムひろしま2022 ～地域における高齢者の自殺予防のこれまでとこれから～」を9月3日 広島市総合福祉センターにて行いました。医療法人啓仁会 ロイヤルこころの里病院 診療部長 高橋祥友氏からは「高齢者の自殺予防を考える」と題して講演頂きました。

続いてのシンポジウムでは「支え合いとつながりで紡ぐ地域の自殺予防対策」をテーマに、府中市元気づくり係 保健師 小田怜子氏と、廿日市市健康づくりグループ 保健師 延安華世氏から、実際の各取り組みをご紹介頂き、広島いのちの電話 永川邦久理事をコーディネーターとして、それぞれの事例に応じた活発な意見交換がなされました。多くの皆様からのご支援、ご参加に心より感謝申し上げます。

新しい仲間を迎えて — 歓迎会、集い、勉強会の同日開催 —

10月22日、1年間の養成講座を終了し、相談員の認定を受けた25期生と26期生の合同歓迎会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、2年ぶりの開催となった「相談員の集い」と「勉強会」も同日開催。相談員の集いでは、相談員を始めるきっかけや相談員を続けている理由などを話し合い、それぞれが初心を振り返る機会となったように感じました。参加者は、「仲間と久しぶりに交流が出来た」と、喜んでいました。

勉強会では、「性・生について」と題して、呉市ふたば病院勤務の末永修治氏に講演頂きました。広島いのちの電話の相談員は半数以上が女性で、男性の相談電話に傷つき内容によっては心の修復が出来ず脱会していく仲間もいます。このテーマは電話相談において大きな課題の一つで、このような勉強会を継続的に実施し、男女の性差についての理解を深め、性に向き合う姿勢を学習していくことの必要性を実感しました。



ある日の電話から⑦

<えっ、もしもし>「…あ～もう、死ぬしかないです…(ため息と沈黙)」

心が揺れる。沈黙の時間が流れる。コーラーの無言の息づかいを感じながら「私ここにありますから」と伝える。電話の向こうのコーラーと、今この電話で繋がっている。待つ。少しずつ話始める。両親と一緒に店をやっていた頃の話、子どもの頃の話。

「コロナ禍で親父が築いた店を閉めるしかない。電気代も払えてないからいつか消えるだろう。常連のお客さんや両親のことを思うと申し訳ない。一度は家を離れて自分の好きなこと

をしていたけど、親父の姿を見ていたからやっぱり家に戻り店をやることにした」「あ～、やっぱり閉めるしかないんだよなー」

社会の厳しさを感じ、何を言ったらいいのか、言葉がみつからない。ただ聴くだけしか出来ないが、ひたすら耳を傾けて、寄り添うことの大切さを改めて感じる。

(相談員Y.C)

◎これは「いのちの電話」への理解を深めていただくための記事です。
電話相談を一般化したもので、決して事実を伝えたものではありません。

広島県フリーダイヤル

広島県フリーダイヤル
「自殺予防いのちの電話」
毎月20日
午前8時から午後8時
☎0120-375-568

ご存知ですか。
毎月20日、
いっぺん
かけてみんさい。



いのちを守ろう
地域の輪

相談員雑感

知らぬ間に 忍びよってくる コロナの孤独

突然隣の職場の若い女性が退職していきました。普段からもっと声掛けしておけばよかったと、悔やまれました。一本一本の電話、反省あれど、後悔のないよう話ができればいいですね。

偶然取ったうれしい電話 10年に1度の突然のごほうび

普段これでいいのかと迷いながらの電話です。突然のお礼の電話。また次の電話に向かう気持ちが生まれます。

全国共通
「自殺予防フリーダイヤルのいのちの電話」
毎月10日
午前8時から翌朝8時(24時間)
☎0120-783-556

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
毎日16時～21時
(10日のフリーダイヤルはいつも通り実施)
☎0120-783-556
コロナ禍の中で様々な困難や苦悩にあって、おひとり苦しんでおられる方のための電話です。どうぞ、そのお気持ちをお聴かせください。

イオングループ
幸せの黄色いレシート
キャンペーン

多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げます。毎回、相談室や研修室に利用できるものを購入させて頂いております。引き続き、ご協力よろしく申し上げます。

★毎月11日

★登録店舗 マルナカ白鳥店 イオン広島府中店

あたたかいご支援ありがとうございます

広島いのちの電話は皆様のご寄付を主要な財源として運営されています。
(2022年7月～11月)

●法人・維持会員費 (敬称略)

7月 日東不動産株式会社 (宗)広島アライアンス教会 (有)エフアンドエム.インターナショナル 国際ソロプチミスト広島
8月 (宗)広島アライアンス教会 日東不動産株式会社 株式会社イトー 日域医院 日域昭三・日域広昭
医療法人仁康会理事長 谷本雄謙 沖胃腸科クリニック 広島県精神神経科診療所協会 大和重工株式会社
原南民生委員児童委員協議会 広島県看護協会 医療法人みやうち 中国労働金庫営業企画 弁護士 立岩 弘
一般社団法人広島県医師会 天野國幹 Sky Clinic 株式会社ヒロセキ 長東民生委員児童委員協議会
生活協同組合ひろしま 横山弘成 株式会社ニシキプリント 県立広島大学本部事務部教学課学生支援係
9月 日東不動産株式会社 広島東南ロータリークラブ もみじ銀行経営管理部 生協ひろしま労働組合
(宗)広島アライアンス教会 広島銀行
10月 (宗)広島アライアンス教会 日東不動産株式会社 原地区民生委員児童委員協議会
11月 株式会社ホロン (宗)広島アライアンス教会 日東不動産株式会社

●個人・維持会員費 (敬称略)

個人情報保護の観点から、個人会員様・一般寄付及び広島県共同募金会については
お名前の掲載を見合わせておりますので、ご了承ください。

●一般寄付 (敬称略)

個人情報保護の観点から、個人会員様・一般寄付及び広島県共同募金会については
お名前の掲載を見合わせておりますので、ご了承ください。

第28期生相談員養成講座

【募集開始】

2023年(令和5年)2月頃(予定)

【研修期間】

2023年(令和5年)5月～
2024年(令和6年)4月(予定)

※詳しくは、ホームページ等でお知らせします。
お問い合わせは広島いのちの電話事務局まで。

社会福祉法人 広島いのちの電話

第28期
電話相談員 受講生募集

募 集 中

「いのちの電話」の活動を支える一人に加わりませんか!
あなたも、ぜひ! 聴き手になってください

広島いのちの電話はボランティアによる電話相談活動です。
孤独、不安、生きづらさなどを訴える方々からの電話を年間約13,000件ほど受けています。
いのちの電話(広島)は、1988年以来、365日24時間体制で受話器を握っています。

相談員には養成講座(1年)を受講したのち認定されます。
募集期間: 2023年2月～4月
研修期間: 2023年5月～2024年4月

申込み待っています



地域をつくる市民を応援する共同募金活用事業 “社会課題解決プロジェクト”

社会福祉法人
広島いのちの電話

相談ダイヤル

(082)221-4343
年中無休 24時間受付

詳しくはホームページを
ご覧ください。



募金のお願い

わたしたちは、24時間365日「眠らぬダイヤル」として
市民ひとりひとりのいのちを大切に作るボランティア活動を続けています。
活動はみなさまからの寄付で成り立っています。
ご協力をよろしくおねがいします。



広島いのちの電話は、広島県共同募金会「社会課題解決プロジェクト募金」の募金活動に取り組んでいます。募金いただいた全額が、いのちの電話活動に有効に使用されます。皆さまの温かいところをお寄せくださいますようお願いいたします。

募金期間: 2023年1月1日～3月31日
募金目標額: 100万円

ご寄付には専用の振込用紙が必要です。
事務局にご請求ください。

【活動概要】

24時間自殺予防電話相談

【社会課題解決事業名】
自殺予防を目的として、
24時間365日、電話による相談事業。

【その他の電話相談】

☎日本いのちの電話連帯「金曜日ダイヤル」 0120-783-558
毎月10日 a.m.8:00 ~ 翌 a.m.8:00
☎広島県「いのちの電話フリーダイヤル」 0120-976-588
毎月20日 a.m.8:00 ~ p.m.8:00
☎「コロナ」災害フリーダイヤル 0120-783-558
毎日 p.m.4:00 ~ p.m.9:00

あなたのご支援を必要としています

●維持会費(口数に制限はありません)

個人会費 年間1口 2,000円
法人会費 年間1口 10,000円

●寄付金

遺言・遺産のご寄付もお受けしております。
自由な金額でご援助ください。



郵便口座 広島 01300-9-14957
銀行口座 もみじ銀行 広島中央支店(普) 1522242
広島銀行 八丁堀支店(普) 177712
口座名義 社会福祉法人広島いのちの電話

社会福祉法人広島いのちの電話

〒730-0013

広島市中区八丁堀7-11 広島YMCA内

☎082-221-3113 FAX 082-221-6778

メール hll@go2.enjoy.ne.jp

ホームページ

24時間相談受付

ふたりで しみじみ
(082) 221-4343

銀行振込の場合は、お手数をおかけしますが、領収証送付のため、住所とお名前を事務局までお知らせください。
社会福祉法人広島いのちの電話への寄付金は、個人・法人ともに税法上の優遇措置を受けられます。